

1 自己評価及び外部評価結果

1階

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2390500151		
法人名	株式会社 希壮		
事業所名	グループホーム フレンズハウス和楽家		
所在地	愛知県名古屋市中村区猪之越1-5-28		
自己評価作成日	令和2年9月1日	評価結果市町村受理日	令和2年12月11日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人なごみ(和)の会		
所在地	名古屋市千種区小松町五丁目2番5		
訪問調査日	令和2年11月4日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

「ふれあいとコミュニケーションを大切に尊厳を保ちつつ、ご入居者様の状態を丁寧に見極め寄り添えるように心がけよう」を理念とし、ご入居者様が第二の我が家として感じていただけるよう、ご家族様や知人スタッフと和みを深め安心して暮らしていただけるよう心掛けております。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

開設10年を迎えた「フレンズハウス和楽家」は、閑静な住宅街に溶け込む2ユニットの事業所である。理念に盛り込まれている「利用者の尊厳」に重きを置き、管理者は、利用者への関わり方を折りに触れ職員と共有している。意見交換を密に図り、常に意識を利用者へ向け、変化に気づき対応する姿勢は、職員全体に浸透している。これまで家族との交流機会を積極的に設けてきたが、新型コロナウイルスのため今年度は制限を迫られてしまっている。その状況下、現況をまめに報告したり、面会方法を工夫して、本人や家族に配慮した取り組みを実践している。また、例年の地域行事が中止となることが多い中、挨拶を欠かさず、ホーム行事へのお誘いや防災訓練周知等、可能なことを持続して、立ち上げ当初より築いてきた地域関係の継続に取り組んでいる。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	<input type="radio"/>	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	<input type="radio"/>	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input type="radio"/>	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果 1階

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	スタッフ会議の際に理念を唱和することで共有し実践につなげています。理念の理解に努め、接遇に重きを置いており、必要時にはその都度、個別に職員へ適切な対応を促し実践につなげています。	月1回のスタッフ会議で唱和し理念の共有を行っている。また、日常の関わりの中で、尊厳を忘れた振る舞いになっていないかの振り返りを行ったり、入居者の様子の変化を申し送り等で情報共有し、必要時に医師に連絡する等理念の実践に努めている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域連携推進会議で教えていただいた地域の行事には積極的に参加し交流しており、施設で行われる納涼夏祭りや周年祭では施設にて交流できるようご近所様もご招待しています。また日常の散歩の際には地域の方や店員さんと挨拶することにより地域の一員として交流できるように心掛けています。	町内会に加入している。学区の会長より、地域行事の案内を受け、交流をおこなっている。毎年敬老会には地域の小学校との交流があるが、今年度は、コロナ禍ということもあり、記念品の受け取りという形で交流を継続している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域連携推進会議にて情報の提供や話し合いの場を設けておりますが、開かれた施設として気軽に相談していただける施設を目指していきたいと思っております。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議での報告や皆様のご意見、いきいき支援センターの報告等を参考にサービスの向上に活かしています。	いきいき支援センター担当者、入居者、学区の会長、民生委員等で構成したメンバーで今年度は4月のみ書面での開催を含めて6回開催している。会議では、行事報告の他、防災、感染防止対策、身体拘束ゼロの取り組み等の報告をしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	地域連携推進会議の際いきいき支援センターの方とは情報交換をしたり、区の事業者連絡会にも参加し、強力関係を築くよう取り組んでいます。	中村区の担当課と必要に応じて、相談や報告を行っている。区主催の事業者連絡会へ管理者が参加している。職員のスキルアップに、市のキャリアアップ研修へ応募し受講している。また、生活保護受給対象の入居者も入居しているため、区の保護係とも定期的に情報共有し、協力関係を築いている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	外部講師をお招きして内部研修を行い拘束をしないケアの実践につなげている。また毎月の職員会議において身体拘束をしないケアについて話し合い、拘束をしないケアの取り組みをしています。	定期的な研修の他、職員には身体拘束ゼロの手引きを配布し、毎月の会議ではスピーチロックを含めて身体拘束をしないケアの実践が出来ているかを話し合っている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	法律について知識のある管理者の指導のもと、職員は注意を払い防止に努めています。外部講師をお招きして内部研修を行い虐待が見過ごされないよう職員の意識向上を図り虐待防止に努めています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	全員の職員が学ぶ機会を設けていませんが、入居の際に必要なと感じた入居予定者に関しては管理者から話をさせていただいております。職員が学ぶ機会をつくってきたいと思っております。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の際には十分な説明を行って納得していただいていると思っています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	地域連携推進会議の際に代表として、ご入居者様を会議に出席していただいています。毎月家族会を開催し交流の機会を設け、三ヶ月に一度のケアプラン検討会でもご家族様の意見・要望を伺っております、また来設時には要望を伺うように努めています。	意見箱の設置がある。例年月1回は家族参加ができる行事を行っていたが、コロナ渦の現在は場所、人数の制限を設けた面会を行っている。また、何かあれば電話で意見要望を聞いている。毎月発行のおたよりにも個別の状況を載せ、安心に繋げるよう努めている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月に一度のスタッフ会議、毎日の申し送り、また日々の業務の中でも職務改善の意見や提案をして頂き運営に反映させています。	毎月の会議、朝夕の申し送り時に入居者についての話の他、業務に関しても職員の意見を聴取している。職員からの要望で調理専門の職員を3名採用し、業務改善を図る等運営に反映している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	キャリアパス規程に則り職員のやりがいを高めるように努めています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	スタッフ会議の参加時に研修手当を支給しています。研修にはキャリアアップ助成金を支給して、積極的に研修参加を促し職員の資質向上に努めています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループ内の他施設との交流や会議を通じ、介護についての幅広い情報確保に努めています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご本人様が環境の変化で困っていること等アセスメントを行い、安心して生活していただけるように信頼関係を築くように努めています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前や入居時に御家族様の要望や不安点等を伺いながら信頼関係に努めています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	サービスを導入する前に御家族様やご本人様の話を伺いどうすればご本人様や御家族様が幸せに過ごせるかを考えて対応するように心掛けています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	家事などをスタッフと共に行って頂くことで、一緒に暮らす者という関係を築くようにしています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族様へお渡しする月1回のお便りにご本人様の様子を記入したり、来所の際に本人様の様子をお話させていただいたりする事で情報交換を心掛けています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入居ということはどうしても関係が途切れてしまいますが、ホームに友人が訪ねて来られることは歓迎しています。その他居室に写真を飾ったり友人に手紙を書いたり電話で話されたりしています。	友人、家族の来訪や一緒に外出を楽しまれる機会がある。現在はコロナ感染防止のため、人数を限定した面会や電話の取次ぎや手紙の支援で関係継続に努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の関係を把握しながら職員が間に入り話をしたり、共同作業も行って頂いています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去された後も必要に応じ、電話の対応や来所時の対応も丁寧に行っています。退去後も連絡がとりやすい環境に気をつけています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	一人ひとりの希望や意向を伺うとともにスタッフ会議等でご本人様について検討する機会を設けています。	入居時のアセスメントでの聞き取りの他、日頃の関わりや会話の中から思いや意向があれば経過記録や申し送りノートに記入し、職員間で共有している。意思の表出が難しい方の場合は排泄状況、バイタルサイン、表情等の様子の変化等、様々なデータを基にして本人本位を検討している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時にご本人様のそれまでの暮らしの状況等を伺うことによりホームでの生活の参考にしております。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の生活の中で一人ひとりの今の状態の把握に努めています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	月に一度のスタッフ会議や三ヶ月に一度のケアプラン検討会にて、ご本人様の状態について話し合い、ご本人様やご家族様の意見や要望を取り入れながらケアプランを作成しています。	毎月の会議でモニタリングを実施し、3か月に1回再アセスメント、計画の見直しを行っている。家族からは事前に面会や電話で意見聴取をし、計画に反映している。日々のケアは、ケア目標が記載されたケアプランチェック表を用い、全職員が入居者の目標を意識したサービス提供が行えるよう工夫している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日頃の様子を詳細に個別記録に記入しています。その他申し送りノートにて情報共有を図り、日々のケアはケアプランチェック表を用いて確認しています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれ出るニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人の状況に応じて柔軟な支援やサービスを心掛けています。サービスの多機能化も必要に応じて行うようにしております。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域資源について把握出来ていない部分が多いですが、地域連携推進会議等の話し合いで得た情報を活用し、ご入居者さまが安心安全に暮らして頂けるよう支援しています。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居時に今までのかかりつけ医がいいかホームの主治医がいいかを伺い、現在は全員ホームの主治医で往診をうけています。日常の体調の変化を往診時に相談しながら必要に応じて主治医から外部の医療を紹介していただいています。	入居後は全員、月2回、24時間対応可能な提携医の訪問診療を受けている。専門医受診は家族に支援を依頼し、難しい場合は管理者が付き添っている。訪問看護とは連携が図られており、一週間に一度の健康管理の他、内部研修時の講師を引き受けてもらっている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	主治医や訪問看護師には、その都度報告・相談しながら利用者が適切な受診や看護が受けられるようにしています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院した際に情報提供をしたり、退院に備えて情報提供をして頂くなどしています。またお見舞いに行く際にはナースステーションに顔を出し、話し合いをするようにしています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居の際、重度化した場合や終末期のあり方について説明させていただいています。重度化・終末期を迎えている利用者様には、主治医とご家族と今後のことを話し合う機会を設け支援に取り組んでいます。	入居時に、重度化、終末期対応に関する指針を説明し同意を得ている。その後重度化に伴い、他施設への転居の選択肢も含め、家族、医師と話し合っている。内部研修にてターミナルケア研修を実施し理解を深めている。	医療関係者の専門的な知識や助言も得ながら、看取りの方針を確立されることを期待したい。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	全ての職員が定期的に応急手当や初期対応の訓練をしていませんが今後はしていきたいと思っています。急変時の対応については話をしています。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練は定期的に行っています。地域の消防署との協力体制は、訓練に参加して頂くなどしており、協力体制は出来つつあります。又、学区の防災安心まちづくり委員会と地域防災協力の覚書を締結しており、地域との協力体制を築いています。	年2回防災訓練実施のうち1回は夜間想定で実施している。その際に、近隣の方へ協力を要請している。具体的には、屋外避難待機時の入居者の見守り等をお願いしている。今年度、自家発電機を設置した。そのことにより、2階フロアの3日分電力の確保が可能になった。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	人生の先輩であるということを認識し、丁寧な言葉つかいや言葉掛けをするように気をつけて対応しています。	指示的な言い方をしないよう声かけや話し方に注意し、定期的な振り返りや、毎日の申し送り時に話題にして意識付けしている。名前は「さん」付けて呼び、フロア内会議時は個人を部屋番号で呼んでいる。居室入室時はノックをし許可を得ている。日常的な記録紙は人目に触れないよう保管場所に配慮している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	問いかける言葉かけをすることにより本人の思いや希望を話をしていただけるように気をつけています。イベントやレクリエーションへの参加は本人に決めて頂くようにしています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	大まかな日課は決っていますがその他の時間は一人一人好きなように過ごして頂けるようにしています。また、なるべくご本人様のペースに合わせて時間に余裕を持たせたケアを行っています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	職員と一緒に服を選んだり、お化粧したり、マネキュアをつけたい方には職員がつけて身だしなみやおしゃれを楽しんで頂いています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事に関しては好き嫌いを考慮し、どうしても食べれない物に関しては違う物を提供したり盛り付けを変えたりして提供しています。食事は職員も食卓を囲み同じ物を一緒に食べています。調理や片づけ等の参加があります。お誕生日にはホールケーキの飾りつけを一緒に行います。	本社栄養士の献立を担当職員が調理している。食材は八百屋で購入。可能な際は入居者も共に出かけている。季節の行事にちなんだ特別食や、毎月「おすしの日」を設けて楽しんでいる。毎日手作りおやつを実施している。食事が進むよう、様子を観察し記録し原因を探っている。代替物を用いたり形態を変えてみる等、食べることを大切にしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分量、食事量をチェックして1日を通じてどのくらい摂取しているか確認しています。食事に関しては一人一人の状態に応じて薄味にしたり、細かくしたりして配慮しています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎回の食事後口腔ケアを行い、洗いきれない所は介助させていただくことにより清潔を保持するように配慮しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表により排泄の状態を確認するとともに尿意、便意を感じない利用者に対しては時間を決めてトイレ誘導をする等配慮しています。	全員の排泄状況をチェック表に記録している。おむつ使用の方がトイレ排泄へ移行する等、自立に向けて支援している。夜間もパターンや量を把握して、個性に合わせて対応している。便秘予防は、ヨーグルトや冷たい朝一番の牛乳等、個別に応じて対策している。体操や家事を応用した運動も実践している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄チェック表により確認するとともに毎日体操の時間を設けたり、バランスを考えた食事の提供、一人ひとりが美味しく食べられる工夫をすることで予防に取り組んでいます。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	一人ひとりの希望にあわせてゆっくり入浴できるように心掛けています。ゆず湯や菖蒲湯で季節を感じ楽しむ工夫を行っています。	基本的には週2回以上、13時30分から15時に入浴している。個々の好みの温度や入り方を把握し、ゆったり入ってもらえるよう配慮している。菖蒲や柚子等の季節湯を実施して楽しんでもらっている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりの生活習慣に合わせて居室でゆっくりされる人、リビングで好きなことをされる人等それぞれ思い思いに過ごしていただき夜間気持ちよく眠るように配慮しています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	往診の際に薬の変更があった場合は主治医の話が職員全員が理解できるように配慮しています。また薬情報を個別記録ファイル綴じ職員が常に確認できるようにしています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	料理、裁縫、手芸等、生活歴や好きなこと、得意なことを行なっていただいています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	日常では近所のドラッグストアへ買物に出かけたり散歩や中庭でゆっくり過ごしていただいたりしています。外出行事や外食等を企画したり月に1度はご家族様を招待し様々な行事を企画して楽しんでいただけるように配慮しています。	新型コロナウイルス蔓延前は、日常的にホームの周辺を散歩したり買い物へ出かけていた。恒例の知多半島への日帰り旅行は、今年は貸し切りで入居者のみで出かけ、安全に配慮しながら海の食事を楽しむできた。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	入居時にご本人やご家族様が希望された場合はご本人が所持しています。所持をせずに預かっている場合でも外出で買い物をする場合は好きな物を購入して頂けるように配慮しています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご本人やご家族様の希望があれば電話をすることもできますし、手紙のやりとりもできるようにしています。ご本人さまで携帯電話を利用されている方もみえます。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビングには季節感を取り入れたご利用者様の作品を飾ったりしています。日中はなるべく外光を取り入れるようにしています。共用空間をきれいにし、過ごしやすく工夫しています。	キッチンオープン型でリビングが見渡せる。リビングには掘りごたつの畳敷きスペースがあり寛ぐことができる。リビングから直接出られる中庭では、気候の良い時期には、ティータイムやバーベキューを楽しむことができる。加湿器や空気清浄機を設置し、換気やアルコール消毒を行い感染症対策を徹底している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	堀こたつでくつろいだり、ソファで話ができるように工夫している。リビングでテレビをみたり話ができるようにしています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居の際ご家族様には今まで生活していた馴染みのものを持ってきていただくように話をさせていただき、ご本人が過ごしやすくしています。その他思い思いに写真を飾ったりして居心地良く過ごせるようにしています。	エアコン、ベッド、棚、ナースコールが備え付けられている。入居前使用していた家具や仏壇等、馴染みの物や家族の写真でその人らしい部屋作りをしている。毎日、職員と清掃やゴミまとめを行い、まめに換気をして環境整備をしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレの扉の帯の色は青、居室は茶色、浴室はオレンジとそれぞれに色分けすることにより視覚的にわかるように工夫しています。		

自己評価および外部評価結果 2階

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	スタッフ会議の際に理念を唱和することで共有し実践につなげています。理念の理解に努め、接遇に重きを置いており、必要時にはその都度、個別に職員へ適切な対応を促し実践につなげています。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域連携推進会議で教えていただいた地域の行事には積極的に参加し交流しており、施設で行われる納涼夏祭りや周年祭では施設にて交流できるようご近所様もご招待しています。また日常の散歩の際には地域の方や店員さんと挨拶することにより地域の一員として交流できるように心掛けています。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域連携推進会議にて情報の提供や話し合いの場を設けておりますが、開かれた施設として気軽に相談していただける施設を目指していきたいと思っております。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議での報告や皆様のご意見、いきいき支援センターの報告等を参考にサービスの向上に活かしています。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	地域連携推進会議の際いきいき支援センターの方とは情報交換をしたり、区の事業者連絡会にも参加し、強力関係を築くよう取り組んでいます。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	外部講師をお招きして内部研修を行い拘束をしないケアの実践につなげている。また毎月の職員会議において身体拘束をしないケアについて話し合い、拘束をしないケアの取り組みをしています。		
7		○虐待の防止の徹底	法律について知識のある管理者の指導の下、職員は注意を払い防止に努めています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
		管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	元、職員は注意を払い防止に努めています。 外部講師をお招きして内部研修を行い虐待が見過ごされないよう職員の意識向上を図り虐待防止に努めています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	全員の職員が学ぶ機会は設けていませんが、入居の際に必要なと感じた入居予定者に関しては管理者から話をさせていただいております。職員が学ぶ機会をつくっていきたいと思っております。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の際には十分な説明を行って納得していただいていると思っております。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	地域連携推進会議の際に代表として、ご入居者様を会議に出席していただいております。毎月家族会を開催し交流の機会を設け、三ヶ月に一度のケアプラン検討会でもご家族様の意見・要望を伺っております、また来設時には要望を伺うように努めています。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月に一度のスタッフ会議、毎日の申し送り、また日々の業務の中でも職務改善の意見や提案をして頂き運営に反映させています。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	キャリアパス規程に則り職員のやりがいを高めるように努めています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	スタッフ会議の参加時に研修手当を支給しています。研修にはキャリアアップ助成金を支給して、積極的に研修参加を促し職員の資質向上に努めています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループ内の他施設との交流や会議を通じ、介護についての幅広い情報確保に努めています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご本人様が環境の変化で困っていること等アセスメントを行い、安心して生活していただけるように信頼関係を築くように努めています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前や入居時に御家族様の要望や不安点等を伺いながら信頼関係に努めています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	サービスを導入する前に御家族様やご本人様の話を伺いどうすればご本人様や御家族様が幸せに過ごせるかを考えて対応するように心掛けています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	家事などをスタッフと共に行って頂くことで、一緒に暮らす者という関係を築くようにしています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族様へお渡しする月1回のお便りにご本人様の様子を記入したり、来所の際に本人様の様子をお話させていただいたりする事で情報交換を心掛けています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入居ということはどうしても関係が途切れてしまいますが、ホームに友人が訪ねて来られることは歓迎しています。その他居室に写真を飾ったり友人に手紙を書いたり電話で話されたりしています。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の関係を把握しながら職員が間に入り話をしたり、共同作業も行って頂いています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去された後も必要に応じ、電話の対応や来所時の対応も丁寧に行っています。退去後も連絡がとりやすい環境に気を付けています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	一人ひとりの希望や意向を伺うとともにスタッフ会議等でご本人様について検討する機会を設けています。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時にご本人様のそれまでの暮らしの状況等を伺うことによりホームでの生活の参考にしております。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の生活の中で一人ひとりの今の状態の把握に努めています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	月に一度のスタッフ会議や三ヶ月に一度のケアプラン検討会にて、ご本人様の状態について話し合い、ご本人様やご家族様の意見や要望を取り入れながらケアプランを作成しています。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日頃の様子を詳細に個別記録に記入しています。その他申し送りノートにて情報共有を図り、日々のケアはケアプランチェック表を用いて確認しています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれ出るニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人の状況に応じて柔軟な支援やサービスを心掛けています。サービスの多機能化も必要に応じて行うようにしております。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域資源について把握出来ていない部分が多いですが、地域連携推進会議等の話し合いで得た情報を活用し、ご入居者さまが安心安全に暮らして頂けるよう支援しています。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居時に今までのかかりつけ医がいいかホームの主治医がいいかを伺い、現在は全員ホームの主治医で往診をうけています。日常の体調の変化を往診時に相談しながら必要に応じて主治医から外部の医療を紹介していただいています。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	主治医や訪問看護師には、その都度報告・相談しながら利用者が適切な受診や看護を受けられるようにしています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院した際に情報提供をしたり、退院に備えて情報提供をして頂くなどしています。またお見舞いに行く際にはナースステーションに顔を出し、話し合いをするようにしています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居の際、重度化した場合や終末期のあり方について説明させていただいています。重度化・終末期を迎えている利用者様には、主治医とご家族と今後のことを話し合う機会を設け支援に取り組んでいます。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	全ての職員が定期的に応急手当や初期対応の訓練をしていますが今後はしていきたいと思います。急変時の対応については話をしています。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練は定期的に行っています。地域の消防署との協力体制は、訓練に参加して頂くなどしており、協力体制は出来つつあります。又、学区の防災安心まちづくり委員会と地域防災協力の覚書を締結しており、地域との協力体制を築いています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	人生の先輩であるということ認識し、丁寧な言葉つかいや言葉掛けをするように気をつけて対応しています。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	問いかける言葉かけをすることにより本人の思いや希望を話をさせていただけるように気をつけています。イベントやレクリエーションへの参加は本人に決めて頂くようにしています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	大まかな日課は決っていますがその他の時間は一人一人お好きなように過ごして頂けるようにしています。また、なるべくご本人様のペースに合わせて時間に余裕を持たせたケアを行っています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	職員と一緒に服を選んだり、お化粧したり、マネキュアをつけたい方には職員がつけて身だしなみやおしゃれを楽しんで頂いています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事に関しては好き嫌いを考慮し、どうしても食べれない物に関しては違う物を提供したり盛り付けを変えたりして提供しています。食事は職員も食卓を囲み同じ物を一緒に食べています。調理や片づけ等の参加があります。お誕生日にはホールケーキの飾りつけを一緒に行います。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分量、食事量をチェックして1日を通じてどのくらい摂取しているか確認しています。食事に関しては一人一人の状態に応じて薄味にしたり、細かくしたりして配慮しています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎回の食事後口腔ケアを行い、洗いきれていない所は介助させていただくことにより清潔を保持するように配慮しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表により排泄の状態を確認するとともに尿意、便意を感じない利用者に対しては時間を決めてトイレ誘導をする等配慮しています。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄チェック表により確認するとともに毎日体操の時間を設けたり、バランスを考えた食事の提供、一人ひとりが美味しく食べられる工夫をすることで予防に取り組んでいます。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	一人ひとりの希望にあわせてゆっくり入浴できるように心掛けています。ゆず湯や菖蒲湯で季節を感じ楽しむ工夫を行っています。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりの生活習慣に合わせて居室でゆっくりされる人、リビングで好きなことをされる人等それぞれ思い思いに過ごしていただき夜間気持ちよく眠るように配慮しています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	往診の際に薬の変更があった場合は主治医の話が職員全員が理解できるように配慮しています。また薬情報を個別記録ファイル綴じ職員が常に確認できるようにしています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	料理、裁縫、手芸等、生活暦や好きなこと、得意なことを行なっていただいています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	日常では近所のドラッグストアへ買物に出かけたり散歩や中庭でゆっくり過ごしていただいたりしています。外出行事や外食等を企画したり月に1度はご家族様を招待し様々な行事を企画して楽しんでいただけるように配慮しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	入居時にご本人やご家族様が希望された場合はご本人が所持しています。所持をせずに預かっている場合でも外出で買い物をする場合は好きな物を購入して頂けるように配慮しています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご本人やご家族様の希望があれば電話をすることもできますし、手紙のやりとりもできるようにしています。ご本人さまで携帯電話を利用されている方もみえます。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビングには季節感を取り入れたご利用者様の作品を飾ったりしています。日中はなるべく外光を取り入れるようにしている。共用空間をきれいにして過ごしやすくするように工夫しています。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	堀こたつでくつろいだり、ソファで話ができるように工夫している。リビングでテレビをみたり話ができるようにしています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居の際ご家族様には今まで生活していた馴染みのものを持ってきていただくように話をさせていただき、ご本人が過ごしやすいようにしています。その他思い思いに写真を飾ったりして居心地良く過ごせるようにしています。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレの扉の帯の色は青、居室は茶色、浴室はオレンジとそれぞれに色分けすることにより視覚的にわかるように工夫しています。		